

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 3 月 1 日
 所属：獣医学部 基礎教育系
 氏名：委文 光太郎 職位：准教授
 役職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

獣医学部の両学科と生命・環境科学部の臨床検査技術学科ではリーディングの授業を担当しています。また、食品生命科学科と大学院では、前期にリーディング、後期にライティングの授業を実施しています。詳細は以下の通りです。

科目名	学科・専攻	必 選 自	配当年次	受講者数
基礎科学英語	獣医学科	必修	1 年次	41 名
基礎科学英語	動物応用科学科	必修	1 年次	43 名
基礎科学英語	臨床検査技術学科	必修	1 年次	40 名
英語講読	食品生命科学科	必修	2 年次	13 名
英語講読	獣医学科	選択必修	1 年次	20 名
英語講読 I	動物応用科学科	選択必修	1 年次	60 名
ライティング基礎	食品生命科学科	必修	2 年次	13 名
総合英語	獣医学科	選択	2 年次	47 名
英語特別演習	動物応用科学専攻 動物応用科学科	選択必修	大学院 1 年次 (学部) 4 年次	18 名

2. 教育の理念（育てたい学生像、あり方、信念）

英語の語学力は社会人に求められる重要なスキルのひとつであるという言葉をよく耳にしますが、実社会の中で英語を使用する機会はかなり限定されているように思われます。にもかかわらず、就職や大学院進学の際に英語の語学力が求められることがあるのも紛れもない事実です。これまで教員として働く中で、単に英語が苦手という理由だけで、入りたかった企業への就職や希望する大学院への進学が叶わなかった学生さんを実際に目の当たりにしてきました。学生の皆さんには英語が自分の夢の実現への足枷とならないように、少しでもそれを後押しする力となるように、（卒業研究を行う際にも英語は必要になるので）1年次から2年次の間にしっかり英語と向き合って、運用能力を高めてほしいと願っています。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

上に述べた理念の実現のために、担当する授業で最も重視しているのが「予習」です。予習をせずに英語の力を伸ばすことはできないと私は考えています。確かに、予習をせずに試験前に難しい英文の日本語訳などをひたすら暗記して、テストで高得点を取ることにも不可能ではありません。しかしそのようなやり方では、単語の知識は身につくかもしれませんが、読む力や書く力の向上は期待できません。そのため、授業では1人でも多くの学生さんに予習をしてもらえるように、2年前から複数の科目で予習テストを導入し、成績の一部として積極的に評価するようにしました。

また、予習を促すために教材選びも大切にしています。学生の皆さんは英語以外にもたくさん他の授業を履修しているので、英語に多くの時間を割くことは当然できません。さらに、英語の学習に対して高いモチベーションを維持することもそう簡単なことではありません。そのため、少しでも読んでみたくなるような各学科の専門分野に則した興味深い内容の英文を選んで（時にはアンケートを取って希望を聞きながら）、予習した上で授業に臨むようお願いしています。さらに配布資料に余白があれば、学習意欲を高める一助として、英文内容に関連するイラストや写真などもできるだけ取り入れるように心掛けています。

最後に、授業内で英文を和訳してもらおうなどの際には、たとえ間違った答えであって、必ず肯定的なコメントを返すようにしています。英語にも得意・不得意がありますし、何よりも頑張って予習してきたことを評価することで、次の予習に対するモチベーションも上がるように思うからです。

アクティブラーニングについての取組

英語の読解力向上のために本当に必要なものは、アクティブラーニングではなく、各自の丁寧な予習だと考えていますので、現時点でアクティブラーニングについて積極的な取組は行っていません。

ICT の教育への活用

難解な英文の構造や文法事項の説明、ならびに模範解答の提示などをする際に、パワーポイントや黒板アプリを積極的に活用しました。それに対し、複数の学生さんから「わかりやすかった」などの好意的な反応がありました。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C）

A：2年前から予習テストを導入し、積極的に成績評価に反映するようにしました。これにより、今までよりも多くの学生さんたちが真剣に予習に取り組んでくれたように感じます。今後も可能な限り継続していきたいと考えています。

②学生の理解度の把握（A～C）

B：予習テスト終了直後に、学理では受験者全員の得点、AzaMoodleではさらに各問と全体の平均点もわかるので、毎回すぐに確認し、点数が低かったところは授業の中で特に丁寧に説明するように心がけました。そして、説明を聞いている学生さんの様子を観察したり、授業後に質問に来る学生さんから、その日の授業で取り上げた英文の難易度や、説明のスピードが速すぎなかったかどうかなどを聞いて、理解度の把握に努めました。

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C）

A：前述の通り、予習テストを実施したことで、授業外での自学自習を促すことができたと考えています。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A～C）

A：授業後に質問をしに来る学生さんが毎回一定数いたので、納得してもらえるまで全員に対して丁寧に対応しました。またメールでの質問の際は、可能な限り速やかに返信するように努めました。

⑤双方向授業への工夫（A～C）

B：一方的にこちらから説明をするだけでなく、途中で全員に質問を投げかける形で、授業中に何度も問いかけを行いました。また、英作文の授業ではMeetのメッセージ機能を活用して、作成した英文を全員に発表してもらい、その場で簡単なコメントを返すようにしました。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科， M 学科の教員の方のみ記載してください。）

5. 学生授業評価（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

予習テストの実施について好意的な反応が複数あったので、今年度も継続することにしました。そのほかの点については、学生さんたちのニーズが年度ごとに異なることが多いので、前年度の授業評価の結果だけでなく、たとえば、初回の授業で使用するプリントの中に「今後の授業に対する要望」の欄を設けたり、メールで要望を募るなどして、学生さんの声をできるだけ授業に反映するように努力しました。

②①の結果はどうでしたか。

クラスによって異なりますが、要望が多く出されたクラスについてはすぐに翌週の授業からできる限りの対応をしました。結果に関しては、好意的な声が直接いくつか届いていますが、授業評価の結果がまだ届いていないため詳細は不明です。

③②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

前年度の授業評価の結果はあくまでも前年度の受講生による結果に過ぎないので、次年度以降も、前年度の結果をあまり重視せず、実際に授業に出席している学生さんたちの声を大事にしていきたいと考えています。

6. 学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

（参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。）

毎回予習を課すようにしています。ただ口頭で言うだけではあまり効果が期待できないので、予習テストを実施して、それを成績の一部にしっかり組み込むようにしています。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

授業評価アンケートを実施する際に、予め設定されている質問のほかに、「毎回予習をすることで読解力が身についた、英文を読むスピードが上がった、などを実感した人がいれば、是非そのことも書いて下さい」とお願いしたところ、多くの学生さんから「力がついたように感じる」という主旨の意見をもらいました。（当該年度の授業評価の結果が現時点でまだ届いていないため、昨年度の内容となります。）

7. 指導力向上のための取組（FD研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字））

録画の視聴も含めすべてのFD研究会に参加しています。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

学科による偏りもありますが、授業評価アンケートの結果を見る限り、まだ予習が十分でない学生さんが各クラスに一定の割合で存在しています。1人でも多くの学生さんが予習をした上で授業に臨むように、2年前から導入を開始した予習テスト以外にも様々な方法を模索していきたいと思います。

また、近い将来、翻訳ソフトがさらに進化して、英語学習を取り巻く状況にも変化が見られるかもしれない、ということが一部で指摘されています。確かにその点については否定しませんが、少なくとも現段階では、翻訳ソフトは電卓のように完璧なものではありません。ミスもしますし、文脈が理解しにくい場合は翻訳せずに文章を飛ばしてしまうこともあります。

学生の皆さんには、今後、職場等で翻訳ソフトを使うことになっても、「翻訳ソフトに使われる」のではなく、翻訳ソフトのミスに気付いて素早く修正できるようになってもらいたいと願っています。そのためには、英語の読解力や作文力、さらには文法力の向上が不可欠です。それらの実力がしっかり身につくような授業を実施していきたいと考えています。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。
授業評価アンケートの結果

●下線部以外は今回新規追加した事項を示す。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス、小テスト、宿題、レポート課題、試験問題、教材（配布資料、パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究、FD プログラムなどへの参加記録、教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等）、教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ、授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等）、卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評、作成教材についての意見、同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰、教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類、カリキュラムやコースの設計などについての評価

(教育/学習の成果)

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化, 学生の小論文・報告書, 学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例, 特に優秀な学生についての記録, 指導学生の学会発表などの成果, 学生の進路選択への影響についての事実, 学生のレポートの改善の軌跡